

成田空港の貨物取扱いや外国人旅客数は増えているが、国際および国内の地位は低下傾向にある。成田空港が今後も我が国の表玄関であり続けるためにさらにどのような努力や工夫が必要なのか、原点に立ち戻って考えるべき時期を迎えている。

成田空港の14年貿易量は、輸出が前年比6.0%増の59.6万トン、輸入が同▲3.0%減の73.4万トンで經由便などの仮陸揚を含めた合計は、同5.3%増の204.3万トンとなった。貨物量が200万トンを超えたのは震災以来初めてで順調な回復ぶりを印象づけた。品目別にみると、輸出は半導体等製品装置(金額同18.2%増)やレンズ等科学光学機器(同2.5%増)、輸入はスマートフォンなどの通信機器が全体を押し上げた。

もっとも、長い目でみると喜んではいられない。世界の貨物量が過去最高を更新するなかで、成田空港の取扱量は、2004年のピーク(231.2万トン)を未だ超えておらず、国際航空貨物取扱量の順位も、韓国・中国・中東の空港が取扱いを大幅に伸ばすなかで2001年の世界2位から12年には5位へと後退し、国際貨物市場での地位は低下基調にある(図表①を参照)。

また国際旅客数をみても、インバウンド効果で国内空港が軒並み数を伸ばしているのに対して、成田空港の減少(14年1~11月前年同期比▲2.1%減)が際立っている(図表②参照)。首都圏空港では、羽田の国際線発着枠が14年6月に年間+3万回に拡大されたため、同空港では日本人客同30.0%増、外国人客同32.6%増と大幅に増加した。地方空港でも、24時間体制の運行を続け、LCC路線を拡大する関西空港(外国人客同35.2%増)や国際線新ターミナルビルが完成した那覇空港(同71.0%増)などが、訪日客を伸ばして日本人客の減少をカバーした。これに対して成田空港では、新規LCC路線の開拓によって便数こそ増加している(14年冬ダイヤにおける週間発着回数は、国際線で前年比+100回の204回、国内線で同+282回の600回)が、大型機を擁する主力国際路線の羽田シフトにより、14年中日本人客が11.5%減少し、外国人客増加率も同15.8%増と羽田の約半分にとどまったため、全体でも3年ぶりの減少に転じる見通しである。14年の我が国への外国人出入国者数は、円安やビザ発給要件緩和などを受け、全国で前年同期比24.4%増の2,553万人と大幅に増加したが、成田は国際線での地盤沈下でインバウンド増加効果を楽しめなかったと言える。

成田空港では、LCC専用ターミナルの開業(4月8日予定)に向けて、早朝路線バスの運行開始(14年6月)や駐車場ビル内カプセルホテルオープン(同7月)など、路線誘致に取り組んできた。また、空港の利便性向上や魅力づくりにも努めており、駐車料金の引き下げ(同7・10月)、商業施設のリニューアル(同7月)、入場ゲートのノンストップ化(15年3月予定)などを進めている。アクセス面でも、圏央道神崎IC~大栄JCT間の供用開始(5月予定)により、東関道と常磐道が圏央道経由で結ばれることとなり、成田空港と北関東・東北地方間のアクセス利便性が格段に向上する。

こうした企業努力等は集客に一定の成果をもたらしているが、国の政策転換による影響をカバーできている訳ではない。成田空港が今後も我が国の表玄関であり続けるためにさらにどのような努力や工夫が必要なのか、原点に立ち戻って考えるべき時機にきているような気がする。折しも、5年後の東京五輪開催とその後のインバウンドの一段の拡大を見据えて、首都圏空港の旅客輸送力増強について、運用・新規工事着工の両面を含めて成田・羽田の2つの空港で実際にどのように進めて実現するかについて議論を深めるべき時を迎えている。この議論の中で、表玄関としての成田空港の立ち位置や役割について、関係者の議論が一段と深化することを期待したい(下出)。

図表① 国際航空貨物取扱上位10空港 (：千トン)

	2001年		2012年	
	空港	取扱量	空港	取扱量
1	香港	2,074.0	香港	4,025.4
2	成田	1,622.2	仁川	2,397.0
3	アンカレッジ	1,608.8	ドバイ	2,279.6
4	シンガポール	1,507.0	上海浦東	2,183.5
5	フランクフルト	1,425.2	成田	1,952.2
6	マイアミ	1,219.6	フランクフルト	1,938.6
7	アムステルダム	1,183.2	パリ	1,903.0
8	台北	1,178.0	シンガポール	1,806.2
9	ヒースロー	1,173.6	マイアミ	1,652.4
10	仁川	1,164.3	アンカレッジ	1,645.1

(国土交通省「国際物流レポート」をもとに、株式会社ちばぎん総合研究所が作成)

図表② 2014年1月~11月 港別出入国者 (単位：人、%)

順位	港	出入国外国人+出入国日本人				シエア	出入国外国人 (前年比)	出入国日本人 (前年比)	
		14年計	前年比	増加率					
-	全 国	56,647,162	4,069,467	7.7	-	24.4	▲2.9		
1	成田空港	22,124,791	▲472,552	▲2.1	39.1	15.8	▲11.5		
3	羽田空港	9,511,320	2,244,250	30.9	16.8	32.6	30.0		
	首都圏空港	31,636,111	1,771,698	5.9	55.8	19.8	▲1.2		
2	関西空港	11,649,880	1,137,054	10.8	20.6	35.2	▲5.5		
4	中部空港	3,878,816	51,177	1.3	6.8	20.2	▲5.5		
5	福岡空港	3,130,858	297,247	10.5	5.5	25.4	▲1.5		
6	新千歳空港	1,376,748	226,694	19.7	2.4	27.9	▲9.7		
7	那覇空港	1,287,499	502,446	64.0	2.3	71.0	17.0		

(法務省 出入国管理統計をもとに株式会社ちばぎん総合研究所が作成)